

## 1 3 軽量野菜の作付推進

### ～高齢者も活躍できる軽量野菜栽培の推進～

#### 【概要】

高齢者も取り組みやすい軽量野菜の栽培を進めるため、推進チームの結成、実証ほによる栽培技術の検証、導入に向けたパンフレットの作成等に取り組んだ。

#### 【背景・課題】

- ・高齢化により、基幹品目であるながいも等の重量野菜の作付が減少している。
- ・農業生産力を維持し、安定的な収入を確保していくことが求められている。
- ・そこで、高齢者でも取り組みやすい軽量野菜の作付拡大を図った。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・昨年度結成した市町村、農協、農業普及振興室を構成員とする推進チームで会議及び検討会を開催し情報共有を図った。
- ・ピーマン、スナップエンドウ、アスパラガスの3品目について実証ほを設置し、現地検討会等を通じて省力的な栽培方法等について検討した。
- ・軽量野菜の導入に向けた啓発資料としてパンフレットを作成した。
- ・軽量野菜の作付拡大を図るため、セミナーを開催した。

#### 【成果】

- ・推進チーム活動により、情報共有が図られ、軽量野菜栽培への関心が高まった。
- ・実証ほでの取組により、省力的な栽培方法についての可能性を示した。特にスナップエンドウについては、新たな作型（秋収穫）についての関心が高く、取組農家は品種の選定や病害虫防除等を検討しながら、今後も栽培を継続していきたい意向を示した。
- ・セミナーには50名が参加し、軽量野菜の現状と今後の動向、他県の取組事例について学んだ。参加者からは、実証ほの取組について質問が出されるなど、関心の高さが伺われた。

#### 【対象名】

J A八戸野菜総合部会  
ピーマン・パプリカ専門部、キヌサヤ・インゲン・ツラメ専門部（511名）



スナップエンドウ現地検討会



軽量野菜栽培推進セミナー



軽量野菜パンフレット

## 14 安全・安心をPRできる農産物の生産推進

### ～三八地域初のGLOBALG.A.P.の認証取得への指導～

#### 【概要】

GAP認証取得を希望する生産者を掘り起こし、継続的な指導を行い、三八地域で初となるGLOBALG.A.P.認証の取得につながったほか、その取組を他の生産者等へPRすることで、GAP認証取得の機運を高めた。

#### 【対象名】

管内の生産者

#### 【背景・課題】

- ・三八地域ではこれまでGAP認証を取得した生産者がおらず、他地域に比べてGAPに対する生産者の意識が高いとは言えない状態であった。
- ・GAP認証取得を希望する生産者を掘り起こし、継続的な指導を行い、GAP認証取得につなげるとともに、GAP認証取得を他の生産者へ広くPRすることでGAP認証取得に関する機運を高め、三八地域のGAPの普及拡大を強力に進めることとした。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・「三八地域GAP相談窓口」を設置し、GAP認証等に関する農業者等の相談に対応した。
- ・その中で、新郷村の青森農産(株)から、平成30年6月にGLOBALG.A.P.認証取得に関する相談があり、令和元年7月の認証審査に向けて、GAPの考え方、資料の作成方法等について、2年間にわたり計10回の指導を行った。

#### 【成果】

- ・三八地域初となるGLOBALG.A.P.の認証を令和元年9月に取得した。
- ・新郷村長への報告、新聞等の取材等により、GAP認証効果を強くPRし、他の生産者に対するGAP認証取得への取組機運を高めた。
- ・GAP認証取得を契機に、他の生産者においても、GAP認証取得に向けた動きが見られ、認証審査に向けて継続的に指導を進めることにより、今後も認証取得が期待される。



青森農産(株)への指導の様子



証審査(書類審査)の様子



認証審査(現地審査)の様子

認

## 15 地域に合った高品質酒米の生産

### ～三戸地域における酒造好適米栽培～

#### 【概要】

酒造好適米「華吹雪」の高品質生産と大吟醸酒向けの「華想い」の導入により、実需者が求める高品質な酒米生産と、新品種「吟烏帽子」の試験栽培に取り組んだ。

#### 【対象名】

八戸農業協同組合水稻部会  
三戸酒米支部（21名）

#### 【背景・課題】

- ・酒造好適米「華吹雪」に対する地元実需者の評価は、タンパク含有率が高いとの指摘であった。
- ・そこで、実需者が求める「華吹雪」の高品質生産に加えて、大吟醸酒に向く「華想い」の生産に取り組んだ。
- ・県南地域向けに開発された新品種「吟烏帽子」の三戸地域における生育、収量等の特性把握が必要となった。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・酒米栽培関係者による栽培展示ほ等の合同ほ場巡回を2回実施した。
- ・食味分析計により、全生産者の玄米タンパク質含有率を測定し、低タンパク・高品質生産を指導した。
- ・新品種「吟烏帽子」の展示ほを2か所設置し、現地検討会を通して、栽培方法を検討した。

#### 【成果】

- ・「華吹雪」については、土壌診断に基づき減肥やケイ酸資材を施用するよう指導した結果、玄米タンパク質含有率が低下し、普及計画で掲げた目標を達成した。
- ・「華想い」については、展示ほの合同巡回や成績検討会を通して、三戸地域においても栽培が可能と判断され、さらに、地元実需者から「申し分のない品質」との評価を得て、本格的に栽培された。
- ・新品種「吟烏帽子」については、生育、収量等の特性が把握され、収量の向上が図られた。



酒米栽培関係者合同ほ場巡回



食味分析計でタンパク質含有率を測定



陸奥八仙華想い40純米大吟醸